

[シラス]

1. 経年経過及び平成21年1～2月期の漁況の経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では平成11年の5,450トンを一ピークに減少傾向を示し、平成14、15年と1,000トンを下回り低調に推移しました。その後平成16年は3,507トンと比較的好調に推移しましたが、平成17年以降減少傾向を示し、平成20年は2,080トンとなりました。

志布志湾海域では平成12年の1,407トンを一ピークに減少傾向を示し、平成14年は396トンまで減少しました。その後平成15年以降は増加傾向を示し、平成19年は2,374トンと好調に推移しましたが、平成20年は1,172トンまで減少しました。

今期の西薩海域はカタクチシラス主体に8.7トンの水揚げで、前年の6%、平年の17%と前年・平年を大きく下回りました。志布志湾海域ではカタクチシラス主体に43.3トンの水揚げで、前年の159%、平年の110%と前年・平年を上回りました。

2. 平成21年4～6月期の見とおし

漁獲の主体は、カタクチシラスでしょう。来遊量は、西薩海域・志布志湾海域とも前年・平年を下回るでしょう。

(根拠)

西薩海域ではカタクチイワシ親魚の来遊が低調に推移したこと、また本年3月の卵稚仔調査結果でカタクチイワシ卵の出現状況が悪かったことから、前年・平年を下回ると考えられます。志布志湾海域では日向灘のカタクチイワシ親魚の来遊が低調に推移したこと、また日向灘シラス漁の漁模様が低調に推移していることから前年・平年を下回ると考えられます。

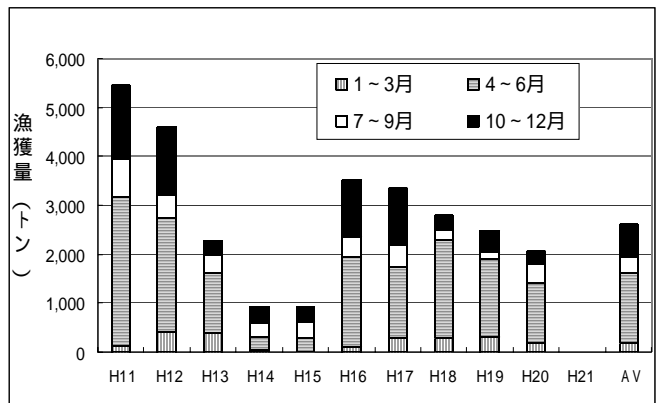
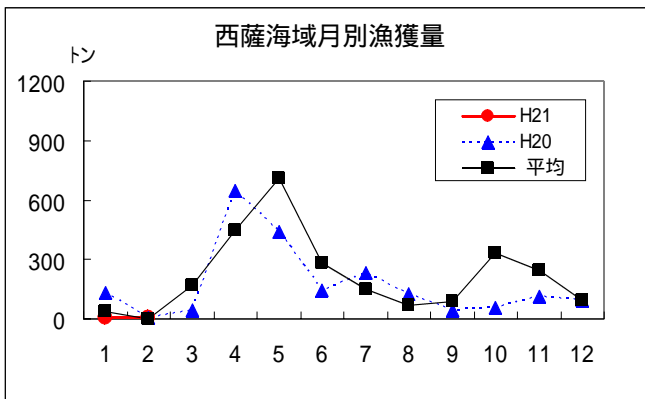


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(4漁協計)

平年値は過去5年(平成16～20年)の平均値(AV)、平成20年2月末までの水揚量を使用。

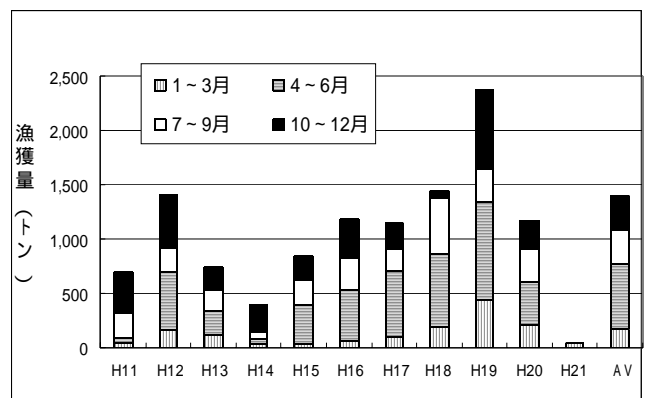
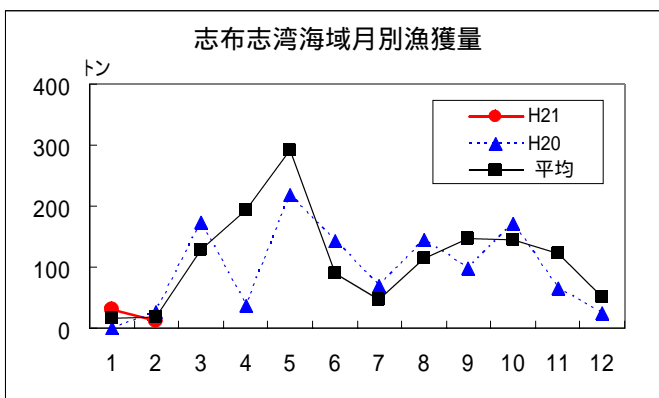


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

平年値は過去5年(平成16～20年)の平均値(AV)、平成20年2月末までの水揚量を使用。